

ESG/統合報告 Keyword vol.21

ESG、統合報告。新聞やメディアでよく目にするものの、専門的でよく分からない、という方も多いかもしれません。この分野に精通しているESG/統合報告研究室の研究員が、“いまさら聞きにくい” 初歩的なキーワードの説明とともにポイントを分かりやすく解説します。

1 アルファベット・スープ

頭字語や略語が多いことを示す比喻表現。企業のサステナビリティ情報の開示に関する基準やフレームワークが多数存在している状況のことを指す文脈で使われることが多い。



ココがポイント

アルファベットスープの語源の一説として、フランクリン・D・ルーズベルトのニューディール政策が挙げられており、15以上の法案を押し進めた結果、英語の頭文字を多用した機関の乱立から生じた現象を揶揄する表現から始まったとも言われている。

「アルファベット・スープ」現象と表現されるサステナビリティ情報開示に関するガイドラインの乱立は長年問題視されていたが、IFRS財団が設立したISSB（国際サステナビリティ基準審議会）が「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項（S1）」や「気候関連表示（S2）」を公表するなど、近年は大きく収斂する動きが出てきており、注目を集めている。

2 グリーンウォッシュ

うわべだけ環境保護に熱心にみせること。英語で「環境配慮」や「エコ」などの意味を連想させるGreenと、「ごまかし」や「うわべだけ」を意味するWashingを組み合わせさせた造語。



ココがポイント

社会の環境意識の高まりを受けて「SDGs」や「エシカル」がビジネスのキーワードになり、企業側は「環境に配慮している」イメージを発信することで、自社のイメージアップに繋げようとする動きが活発になった。グリーンウォッシュとは、企業がアピールする環境配慮の取り組みが実態を伴っていないことを表す言葉である。例えば「環境に優しい」と記しながら、実際の製造時は廃棄時などに大量の温室効果ガスを排出する商品やサービスなどの事例が該当する。最近では、環境配慮の「グリーン」だけでなく、SDGsやESGに取り組んでいるように見せかけて実態が伴っていない「SDGsウォッシュ」「ESGウォッシュ」などの用語も使われる。金融庁は2023年3月、ESGに注目した投資信託（ESGファンド）の監督指針を策定し、適用を始めた。「ESGファンド」とうたいながら、実際はESGに注目した銘柄選択や運用がされていない、金融商品のESGウォッシュを防ぐ目的がある。

3 ウォーク資本主義 (Woke Capitalism)

気候変動や人種・ジェンダー問題をはじめとした様々な社会課題に強い関心を持ち、それに対し理解を示し、行動を起こす企業・人のことを表す。もともとは人種や格差などの問題に注意を払う肯定的な意味合いだったが、近年は保守派がリベラル派を揶揄するための言葉として使われることが増えている。



ココがポイント

「Woke」とは、英語「Wake」の過去形で、直訳すると「目が覚めた、覚醒した」などの意味であり、2020年前後から米国を中心に使われるようになった。日本語では「意識高い系」資本主義と訳されることもある。

ウォーク資本主義の事例の一つとして、Nikeが自社のキャンペーンに元NFL（National Football League）のスター選手、コリン・キャパニック氏を起用し、大きな話題を呼んだことが挙げられる。2016年、キャパニック氏が試合開始前の国歌斉唱の際に起立せず、膝をつくというパフォーマンスをしたことに対し、当時のトランプ大統領が本人とNFLに圧力をかけ、シーズン終了後に彼と契約するチームは無く、結果として早期引退することになった。その後、Nikeはキャパニック氏をCMやキャンペーンで大々的に起用することで大きな話題を作ることに成功し、時価総額を伸ばした。一方でNikeは従業員の低賃金労働の問題等を抱えているにも関わらず体質改善が見られないことや、実際に差別されている人の状況が改善されていないことが問題視された。

4 反ESG法

2023年5月、米フロリダ州で成立したESG投資の活動を制限する法律。州関連の年金基金の運用や地方債の発行、州政府の物品やサービスの調達などでESGを考慮することを事実上禁じる内容となっている



ココがポイント

2024年米大統領選挙に向けた共和党の候補者指名争いへの出馬を正式に表明しているフロリダ州知事のロン・デサンティス氏（Ronald Dion DeSantis）は、2023年5月2日、州や地方の投資決定や調達プロセスにおいてESG要素を考慮することを禁止する規則を含む、一連の反ESG対策に署名した。知事室は、同法案の署名に伴う声明の中で、本法律はESG運動から「フロリダ州民を守る」ことになると述べた。また、ESG運動を、「受益者のために最善の財務決定を行う受託者の義務よりも政治を優先し、金融セクター全体に覚醒した政治イデオロギーを注入しようとする世界規模の取り組み」と表現した。全米各地の州政府主導で進む「反ESG」の旗頭であるデサンティス氏の動きを受けて、ほかの保守州でも同様の動きが広がる可能性があり、注目を集めている。